歯科の医局 話題提供から

脱離しにくい ファイバーポストを考える ④（終）

飯田歯科医院院長
飯田　良彦 氏

歯科会員によるざっくばらんな懇談会「歯科の医局」にて取り上げた「脱離しにくいファイバーポスト」の内容を紹介しています。最終回は、フェルール効果の獲得についてです。

フェルール効果の獲得、これはファイバーポストコアのみならず、メタルコアポストにおいても歯根破折防止に極めて有効です。

「フェルール効果」とは

フェルール効果とは、失活歯にフルカバレッジタイプの補綴をする際、歯冠形成後のマージンより歯冠側に健康な歯肉縁上歯質を残すことで得られる帯環効果のことをいいます。十分な効果を得るためには、高径２mm、幅１mm、歯の全周の75%以上の歯肉縁上歯質が必要だと考えられています（図１を参照）。

図１　フェルール効果獲得のため、歯冠延長術にて歯肉縁上歯質を確保

ただし、ファイバーポストコアでは全周に高径１mm以上の歯質が必要と考えられており、その旨の記載が添付文書にあります。これでは、３壁以上残存が条件の髄質保持型ＣＲコアより、歯質の厚径１mm以上、高径２mm以上の歯肉縁上歯質の方が適用条件は厳しいと感じるのは私だけでしょうか？

重要なのは、初めにファイバーポストコアありきではなく、ポストホールと歯冠形成後に最適なポストコアの材質を選ぶべきでしょう。

図２は、フェルール効果の有無による予後の違いを示す典型例です。

図２

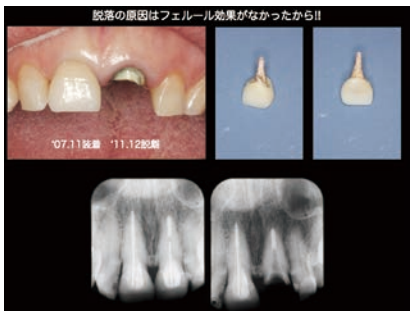
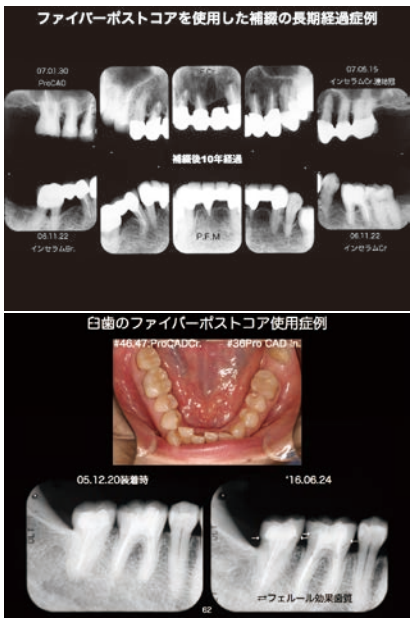


図３と４はフェルール効果を確保した補綴後10年超の症例です。

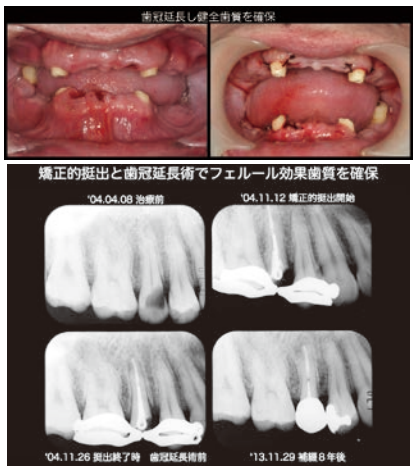
図３と４



フェルール効果歯質の確保

さて、フルカバレッジの補綴修復を行う歯牙は、大抵の場合、１壁から２壁は歯肉縁下あるいは骨縁下にカリエスがあり、ファイバーポストコアの適応ではありません。だからといって、メタルコアの適応とも言い難いのが実際です。この様な場合は、歯肉根尖側移動術（歯冠延長術）あるいは挺出によりフェルール効果が獲得できる健全歯質を確保することが必須です（図５と６）。

図５と６



築造体の決定はポストと歯冠形成後に

前述のとおり、支台築造体の決定はポストホール形成、歯冠形成終了後の確保した歯質量で決定すべきです。ファイバーポスト装着後審美補綴の形成をすると、思った以上に歯頸部付近の歯質がなくなり、適応症から外れる恐れがあるからです。

図７は歯冠延長したものの、歯冠形成後の健全歯質の幅径が不足と判断しメタルポストコアとしました。

このように、ファイバーポストの適応症はまだ限られていますが、前歯部の審美補綴にはぜひとも使用したい新複合素材です。第１回目から今回までの内容を是非理解していただき、処置、適応症を誤らなければ素晴らしい支台築造材料と言えるでしょう。

ただ残念ながら、コーヌスの支台歯もそうですが、義歯の鉤歯のように強い応力が掛かる症例は避けた方が無難でしょう。ＣＲとグラスファイバーによる支台築造体は、歯根破折の防止には確かに効果があります。しかしそれは、メタルポストコアによる歯根破折にいたる応力より、かなり低い力でファイバーポストコアは破損、破折するからと推測されます。ファイバーポストの登場で急に悪者扱いされ始めたメタルポストコアですが、まだまだ臨床でのメリットは大きいものです。

図７

両者の特徴を踏まえた上で、適材適所に使用すれば今まで以上に有益なものとなるはずです。

これまでのまとめ

以下、私の経験則を列挙し、４回にわたる連載を終了いたします。

1. ファイバーポストコアの接着には、前述したように添付文書の内容は熟知し細心の注意を払うこと。特に水分、汚れは要注意。
2. 保険で算定できる本数は臼歯部で２本までですが、それ以上使用する必要があることも多く、その際には自費への移行も考慮すること。
3. ファイバーポストはファイバーアレンジメントを考慮にいれて使用すること。特に、上顎前歯部には側方力しかかからないことを理解し、フェルール効果が期待できる歯質、特に口蓋側の歯質の確保に努めること。
4. フェルール効果を得るための歯質確保には挺出、歯冠延長術が有効。
5. 滑走運動時の接触は、定期的にチェックし咬合調整を行うこと。
6. コーヌス冠の支台を含め、義歯の鉤歯には使用しないこと。
7. 支台築造体の材料決定はポストホール、歯冠形成後の歯質の残余量で判断すること。
8. 支台築造体の強度、維持に関し迷った場合は鋳造ポストを使用すること。

（参考図書）

『接着歯学』第２版（2015年12月）日本接着歯学会編　医歯薬出版（株）

『i－TFC システムの臨床』（2009年２月）真坂信夫・諸星裕夫編著　（株）ヒョーロン・パブリッシャーズ

「医科から歯科へ」診療研究会のご案内

歯科診療 に役立つ 精神科 の知識

講師

医療法人社団和敬会
谷野呉山病院院長
谷野　亮一郎 先生

と　き　**6月7日（水）** 19：30～21：30

ところ　**富山電気ビル**　2階202号室

対　象　**協会会員およびスタッフ**（参加無料）

社会構造の変化とともに精神疾患は多様化、増加する一方です。心の疾患を抱えながら歯科を受診する患者も多くなっているのではないでしょうか。

今回、谷野先生には多様な精神疾患それぞれの性質や患者の対応について、実践的な視点でお話いただきます。参加者との質疑応答も予定しています。

4月度歯科の医局

ベテラン歯科医が語る

歯科医の人生プランニング

各種制度内容を把握し貯蓄や経営に活かす

協会は4月28日、「歯科医の人生プランニング」をテーマに歯科の医局を開催しました。開業間もない30代の会員をはじめ歯科医師23名が参加しました。

太田真治副会長が話題提供役を務め、歯科医師のライフステージ毎に、知っておくと有利な情報や注意すべき事柄を解説。参加者の質問にも答えました。

「小規模企業共済と国民年金基金、保険医年金の特徴を活かした貯蓄」「スタッフの退職金積立のひと工夫」「租税特別措置法の活用に入る前の準備」など、一つひとつが具体的で実践可能な情報で、参加者は熱心にメモしていました。

また堀比佐司理事が補足報告として、目指すべき経営規模モデルや優良医院の決算書例を紹介し、決算時に貸借対照表を確認する必要性を強調。理想的な専従者給与の比率や人件費・技工費の比率を示し、人件費を抑え過ぎると労働意欲の低下に繋がると述べました。

質疑では自動車購入費用の経費按分や銀行借り入れのノウハウなどが話題に上りました。

話題提供のあとには質疑応答も行われた＝富山電気ビル